



いしずえ整形外科

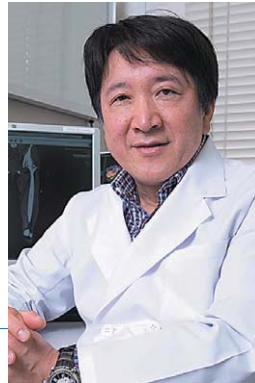
大久保機能再建クリニック&リハビリテーション



■人工関節を使用せず、自己関節を温存する寛骨臼回転骨切り術は難度が高い。この手技の熟達には長いキャリアが必要で、手術は術者の技量が問われる。

関節を温存する 骨切り術も実施

いしずえ整形外科の大久保俊彦院長は、数々の総合病院で関節疾患治療に携わり、人工股関節・膝関節手術は3000件を超える実績をもつ（1998年～2014年12月）。



院長
大久保 俊彦

おおくぼ・としひこ／1983年杏林大学医学部卒業後、日本医科大学麻酔科や横浜市立大学整形外科、横浜市民病院、関東労災病院、横浜南共済病院への勤務、大東東総合病院整形外科部長、西横浜国際総合病院関節外科センター長を経て、いしずえ整形外科を開設。92年に横浜股関節研究会、2007年にNPO法人骨・関節研究会を設立。日本整形外科学会認定整形外科専門医など。

関節・腰・首の疾患を総合的に治療し
関節手術では3000症例を超える実績（1998～2014年12月）
エクササイズを加えたリハビリも独自に開発

JR戸塚駅に隣接するショッピングモールから徒歩1分の、いしずえ整形外科。
開院から3年、口コミでの評判が広がり、2014年度を受診患者数は前年に比べて40%増加している。関節疾患の治療で30年にわたる経験をもつ大久保俊彦院長にうかがった。

変形性股関節症の初期段階

においては、人工物を使用せず自己関節を温存する「骨切り術」も実施。骨切り術は難易度が高く、手技の熟達に年数を要する。また、手術時期の見きわめも難しい。

「私は30年にわたり、さまざまな変形性股関節症の経年変化を研究し、術後の患者さんの経過を丁寧に診てきました。その結果、どの段階で手術を行い、どのような関節に変えるべきか、適切な診断・手術を実施できていると思います。術式も、重心を体の中央に寄せるように改良し、症例ごとにアレンジを加え安定した結果を出しています」と大久保院長。手術は同じ戸塚区にある平成横浜病院で行っており、20

保存療法で症状の改善 術後の筋トレも指導

14年は121件の関節手術を実施。人工膝・股関節手術では2～4週間の入院期間を設け、初期の感染症が起きていないことを慎重に確認してから退院する流れを重視する。

日々の診療では「迅速で的確な診断・治療」を基本方針に、痛みを抱えて来院した場合に、原因をつきとめ速やかに痛みを取り除くことに努める。「たとえば腰痛で来院されたら、指圧やストレッチ、注射などを組み合わせ、その日のうちに痛みを取る治療を行い、さらに適切な予防体操を指導して帰院させる。手術する必要のない変形性膝関節症には、ヒアルロン酸は関節内に、ステロイドは関節外に注射し、角度設定膝装具の装着、リハビリ等を適切に組み合わせる治療で、症状が改善していきます」

術後の患者に対しては、理学療法士やフィットネスイン

HOSPITAL DATA



いしずえ整形外科

大久保機能再建クリニック&リハビリテーション

院長	大久保 俊彦
診療科目	整形外科、リウマチ、リハビリテーション
所在地	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-12 フタバビル501
TEL	045-881-1188
URL	http://www.ishizue-seikei.com
交通	JR東海道線、横須賀線（湘南新宿ライン）、 横浜市営地下鉄ブルーライン「戸塚駅」 から徒歩1分（戸塚区役所となりのビル）。

ストラクターと議論を重ね、メデイカルリハフィットという独自のエクササイズメニューを開発した。
「もともととは、術後にどの程度まで運動が可能なのか、という患者さんの声に応えようと始めた取り組みです。人工関節を入れている患者さん一人ひとりが効果的に筋力をアップでき、運動器としての機能を向上させる、オーダーメイドの内容になっています」
また、肩こりや腰痛が慢性化している患者には、ニュージラントで開発された理学療法・マッケンジー療法の指導も行っている。

「医院名のいしずえは、ここから始める」という意味。私がめざす医療をこの地から発展させたいという想いを、礎の言葉に託しました」
治療経過を長期的に診ることとさらに質の高い医療を提供するという志が、患者の信頼を集めている。



■術後の患者を中心に運動機能を向上させるためにエクササイズを実施している。エクササイズのメニューは大久保先生とインストラクターが相談を重ねて独自に開発。

